3　花き植物成長調整剤

◎使用上の注意

① 植物成長調整剤の使用にあたっては、登録内容を熟知し、適正に使用する。
極めて微量で作物に作用するので、生育状況、環境条件で効果が異なる。
② 農薬など他の薬剤との混用は避ける。

(1)　発根促進

薬剤名	対象作物	希釈倍数	使用基準		使用方法及び注意事項
			時期	回数	
オキシベロン液剤 インドール酪酸 0.4%	キク	500～1,000倍 100～200倍 2倍	－ － －	1	・さし穂基部:3時間浸漬 ・さし穂全体:5～10秒浸漬 ・さし穂基部:10秒浸漬
	カーネーション	200～400倍 2倍	－ －	1	・さし穂基部:16～24時間浸漬 ・さし穂基部:5秒浸漬 又はさし穂100本当り10 mlをさし穂基部に散布
	ツツジ類	40倍	6～7月 (夏さし)	1	・さし穂基部:3時間浸漬
	ドウダンツツジ	40倍 2倍	6～7月 (夏さし)	1	・さし穂基部:3時間浸漬 ・さし穂基部:20秒浸漬
	花き類・観葉植物 (カーネーション、キク及びチューリップを除く)	200～400倍 2倍	－ －	1	・さし穂基部:12～24時間浸漬 ・さし穂基部:5～10秒浸漬
タチガレン液剤 ヒドロキシイソキサゾール 41.52%	キク	1,000倍	挿し芽直後	1	・土壌灌注 5～10 ℓ／m^2

(2)　親株栽培における側枝への腋芽の着生促進

薬剤名	対象作物	希釈倍数	使用基準		使用方法及び注意事項
			時期	回数	
ビーエー液剤 ベンジルアミノプリン ［サイトカイニン剤］ 3.0%	キク	2,000～4,000倍	摘心時	6	・茎葉散布 100～300 ℓ／10a ・無側枝性が強く発現する品種および高温期の栽培では、効果が劣る場合がある。

(3)　伸長抑制

薬剤名	対象作物	希釈倍数	使用基準		使用方法及び注意事項
			時期	回数	
ビーナイン顆粒水溶液 ダミノジット 80.0%	キク(ポットマム)(施設栽培)	200～400倍	摘芯後7～10日又は定植3日後から発蕾初期	3	・節間の伸長抑制 ・茎葉散布 5～10 ml/5号鉢
	キク(切花用)(施設栽培)	500～5,000倍	生育期	4	・節間の伸長抑制 ・茎葉散布 50～150 ℓ/10a
			発蕾期～摘蕾期	2	・花首の伸長抑制 ・茎葉散布 50～150 ℓ/10a

薬剤名	対象作物	希釈倍数	使用基準		使用方法及び注意事項
			時期	回数	
ビーナイン顆粒水溶液 ダミノジット 80.0%	ハボタン（施設栽培）	200～400倍	子葉展開後鉢上げ後	2	・節間の伸長抑制 ・茎葉散布 50～150 ℓ/10a
スミセブンP液剤 ウニコナゾールP 0.025%	キク（ポットマム）	25～50倍	摘芯10日後頃	2	・節間の伸長抑制(矮化) ・茎葉散布 5～10 ml/5号鉢 (原液0.1～0.2 ml/5号鉢)
		50～100倍	摘芯10日後頃		・土壌灌注 50～100 mll/5号鉢 (原液1 ml/5号鉢)
	パンジー	50～100倍	育苗期 本葉2～4葉期	1	・茎葉の伸長抑制による小型化 ・茎葉散布 0.5 ml/株
ビビフルフロアブル プロヘキサジオンカルシウム塩[ジベレリン生合成阻害剤] 1.0%	キク	200～500倍	摘蕾期	1	・花首の伸長抑制 ・茎葉散布 50～100 ℓ/10a ・総使用回数2回以内 ・白色系品種で使用する。 ・有色品種では、花色に影響することがあるので、使用しない。
			発蕾期及び摘蕾期	2	

(4) 開花促進、草丈伸長促進

薬剤名	対象作物	希釈倍数	使用基準		使用方法及び注意事項
			時期	回数	
ジベレリン液剤 ジベレリン[ジベレリン剤] 0.63%	キク	ジベレリン 25～100 ppm	生育期	2	・茎葉散布 50～100 ℓ/10a

(5)開花抑制

薬剤名	対象作物	希釈倍数	使用基準		使用方法及び注意事項
			時期	回数	
エスレル10 エテホン[エチレン剤] 10.0%	キク	500～1,000倍	摘芯時または定植後1週間以内及びその後10～14日毎	3	・全面散布(株全体がぬれる程度) 2～10 ml/株 ・開花抑制
	キク（電照栽培）	500倍	親株摘芯時		・全面散布(株全体がぬれる程度) 2～10 ml/株 ・早期不時発蕾防止

(6)開花促進

薬剤名	対象作物	希釈倍数	使用基準		使用方法及び注意事項
			時期	回数	
ビビフルフロアブル プロヘキサジオンカルシウム塩[ジベレリン生合成阻害剤] 1.0%	ストック	1,000倍	葉数10～14枚時とその7～10日後	2	・茎葉散布 100 ℓ/10a